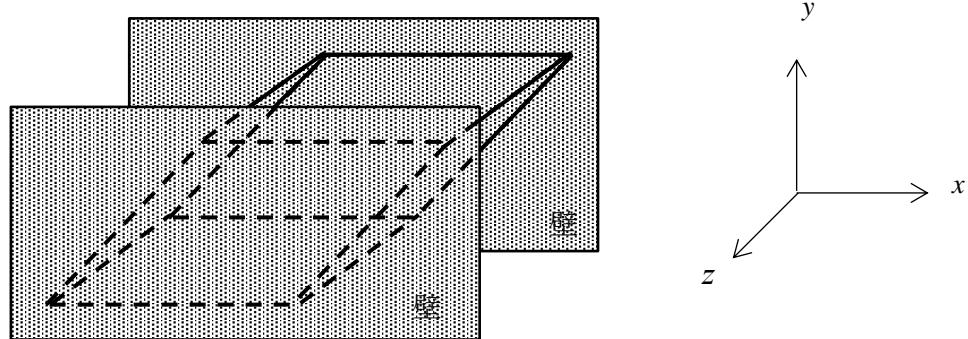
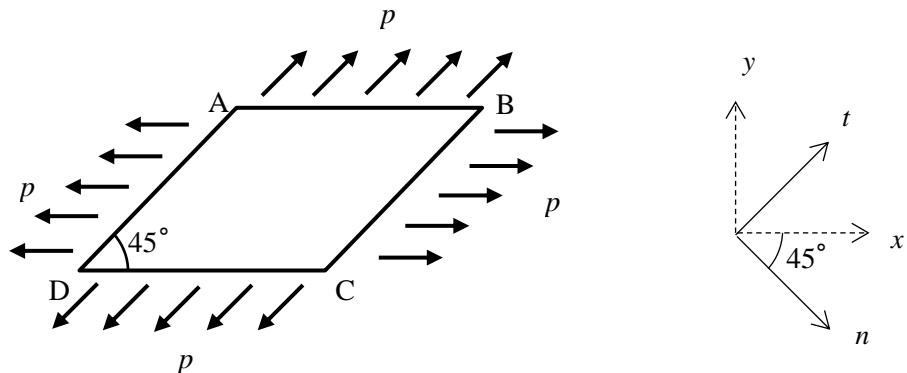


## 材料の力学1 Step1 第5回演習問題 (2018/5/22 実施)

- [1] 図1に示すように、 $z$ 方向が壁で固定され、 $p=8\sqrt{2}$  [MPa]の応力ベクトルが $x$ 方向および $t$ 方向に一様に作用している弾性体を考える。以下の設問に答えよ。ただし、ポアソン比 $\nu$ は $\nu=0.3$ とする。必要であれば $\sqrt{2}=1.41$ を用いて、有効数字3桁で解答せよ。



(a) 3次元的に見た様子(見やすさのため応力ベクトルは省略してある)



(b)  $z$ 方向から2次元的に見た様子

Fig. 1 両端を壁で固定された弾性体

- (1) 図1(b)より、 $x-y$ 座標系からみた辺ABの垂直応力 $\sigma_y$ 、せん断応力 $\tau_{xy}$ と、 $n-t$ 座標系からみた辺BCの垂直応力 $\sigma_n$ 、せん断応力 $\tau_{nt}$ を求めよ。
- (2) 応力の座標変換を行うことで応力 $\sigma_x$ を求めよ。

$$\text{座標変換の式} \quad \sigma_n = \sigma_x \cos^2 \theta + \sigma_y \sin^2 \theta + 2\tau_{xy} \sin \theta \cos \theta$$

- (3)  $x-y$ 座標における応力テンソルを求め、それをもとにモールの応力円を描きその中心と半径を求めよ。
- (4)  $x-y-z$ 座標系における主応力 $(\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3)$ を求めよ。また、それをもとに最大せん断応力 $\tau_{max}$ をもとめよ。ただし、図1の弾性体は平面ひずみ状態であり、 $\sigma_z = \nu(\sigma_x + \sigma_y)$ であることに注意せよ。

(1) 図 1(b)より,  $x$ - $y$  座標系からみた辺 AB の垂直応力  $\sigma_y$ , せん断応力  $\tau_{xy}$  と,  $n$ - $t$  座標系からみた辺 BC の垂直応力  $\sigma_n$ , せん断応力  $\tau_{nt}$ を求めるよ.

まず AB 面に作用する応力ベクトル  $p$  を図 1.1 のように分解する.  $p = 8\sqrt{2}$  より, 垂直応力  $\sigma_y$ , せん断応力  $\tau_{xy}$  は以下のように求まる.

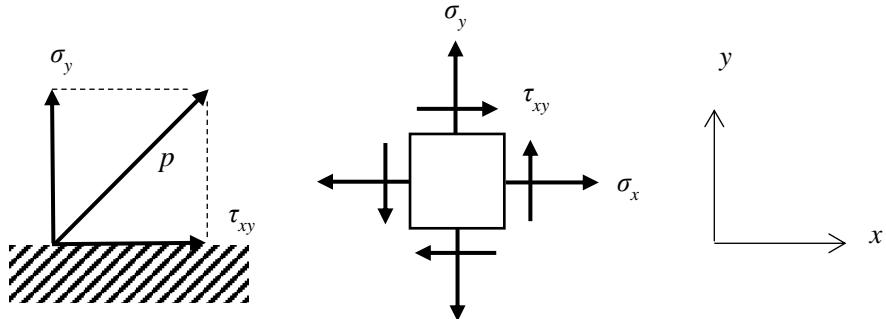


Fig.1.1 AB 面の応力ベクトル

$$\begin{cases} \sigma_y = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \\ \tau_{xy} = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \end{cases} \quad [\text{MPa}] \quad (2.1)$$

$x$ - $y$  座標系から時計回りに  $45^\circ$ 回転した座標系を  $n$ - $t$  座標系とすると, 応力ベクトル  $p$  は図 1.2 のように分解できるよって垂直応力  $\sigma_n$ , せん断応力  $\tau_{nt}$ は以下のように求まる.

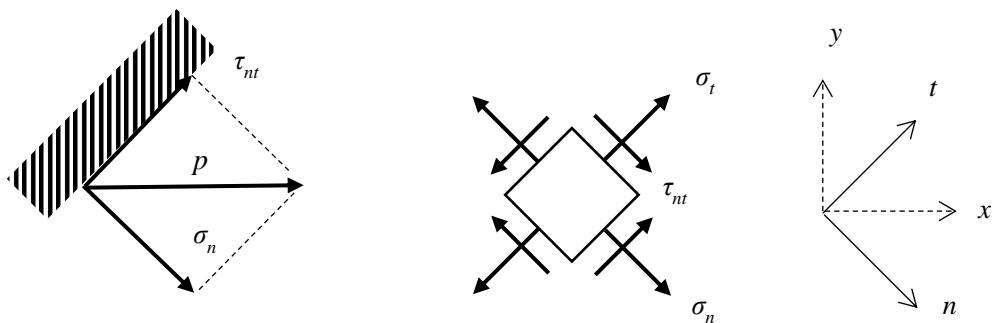


Fig. 1.2 BC 面の応力ベクトル

$$\begin{cases} \sigma_n = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \\ \tau_{nt} = \frac{1}{\sqrt{2}} \times p = \frac{1}{\sqrt{2}} \times 8\sqrt{2} = 8 \end{cases} \quad [\text{MPa}] \quad (2.2)$$

(2) 応力の座標変換を行うことで 応力  $\sigma_x$  を求めよ.

$\sigma_x$  は  $\sigma_n$  と  $\tau_{nt}$  に対して応力の座標変換を行って求める. 座標変換の式は以下のように与えられる.

$$\sigma_n = \sigma_x \cos^2 \theta + \sigma_y \sin^2 \theta + 2\tau_{xy} \sin \theta \cos \theta \quad (2.3)$$

式(2.3)に式(2.1)および式(2.2)の結果に  $\theta = -45^\circ$  を代入すると  $\sigma_x$  が求まる. 従って

$$\sigma_x = 24 \quad [\text{MPa}] \quad (2.4)$$

となる.

(3)  $x-y$  座標における応力テンソルを求め, それをもとにモールの応力円を描きその中心と半径を求めよ.

式(2.1)および式(2.3)より  $x-y$  座標系における応力テンソルは以下のようになる.

$$[\sigma] = \begin{bmatrix} \sigma_x & \tau_{xy} \\ \tau_{xy} & \sigma_y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 24 & 8 \\ 8 & 8 \end{bmatrix} \quad [\text{MPa}] \quad (2.5)$$

以上よりモールの応力円を図示すると以下のようになる.

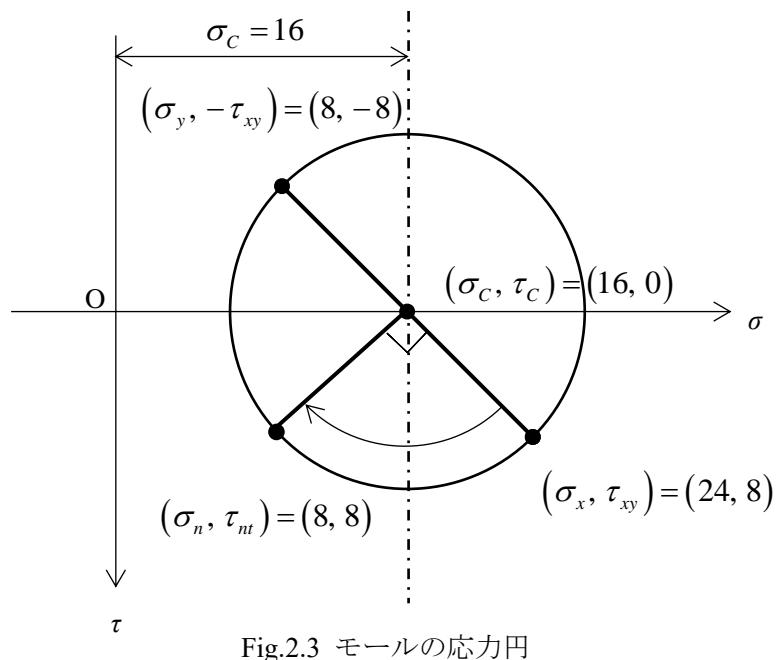


Fig.2.3 モールの応力円

モールの応力円の中心および半径は以下のように求められる.

$$\sigma_c = \frac{1}{2}(\sigma_x + \sigma_y) = \frac{1}{2}(8+24) = 16 \text{ [MPa]} \quad (2.6)$$

より

$$(\sigma_c, 0) = (16, 0) \text{ [MPa]} \quad (2.7)$$

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2} \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2} = \frac{1}{2} \sqrt{(24-8)^2 + 4 \times (8)^2} \\ &= 8\sqrt{2} = 11.3 \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.8)$$

(4)  $x-y-z$  座標系における主応力  $(\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3)$  を求めよ。また、それをもとに最大せん断応力  $\tau_{max}$  をもとめよ。ただし、図 1 の弾性体は平面ひずみ状態であり、 $\sigma_z = \nu(\sigma_x + \sigma_y)$  であることに注意せよ。

(3)の結果より主応力  $\sigma_1, \sigma_2$  は以下のように求まる。

$$\begin{pmatrix} \sigma_1 \\ \sigma_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_c + r \\ \sigma_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 16 + 8\sqrt{2} \\ 16 - 8\sqrt{2} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 27.3 \\ 4.72 \end{pmatrix} \text{ [MPa]} \quad (2.9)$$

本問題では  $z$  方向が壁で固定されており平面ひずみ状態とみなせるため  $\sigma_3$  は以下のように求まる。

$$\begin{aligned} \sigma_3 &= \nu(\sigma_1 + \sigma_2) \\ &= 0.3 \times (16 + 8\sqrt{2} + 16 - 8\sqrt{2}) = 9.60 \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.10)$$

よって

$$(\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3) = (27.3, 4.72, 9.60) \text{ [MPa]} \quad (2.11)$$

以上より  $\sigma_1 > \sigma_3 > \sigma_2$  であるので、最大せん断応力  $\tau_{max}$  は以下のように求まる。

$$\begin{aligned} \tau_{max} &= \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} = \frac{27.3 - 4.72}{2} \\ &= 11.3 \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.12)$$

また、これら主応力を図示すると以下の図 2.4 のようになる。

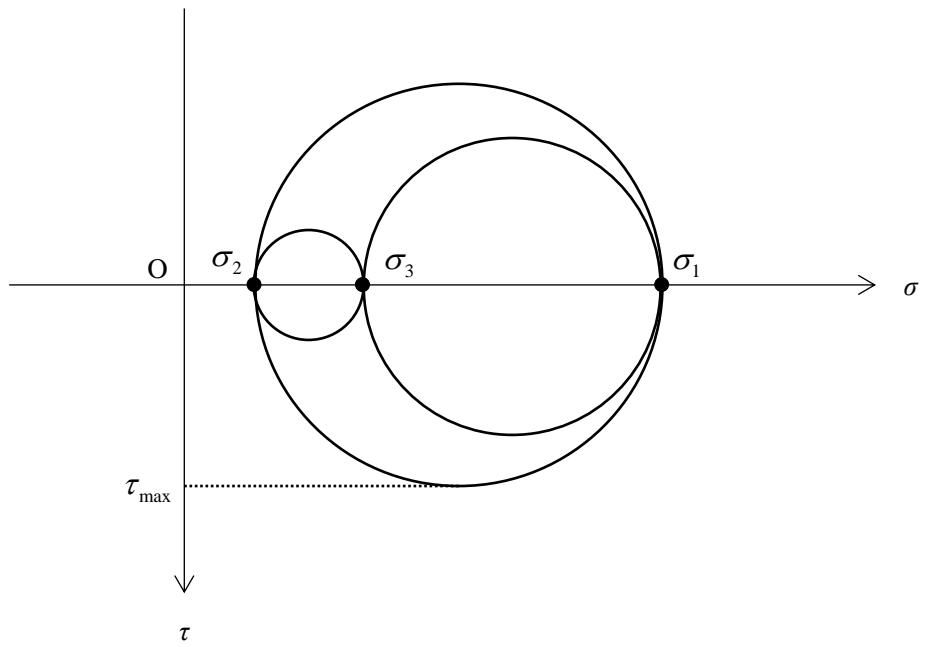
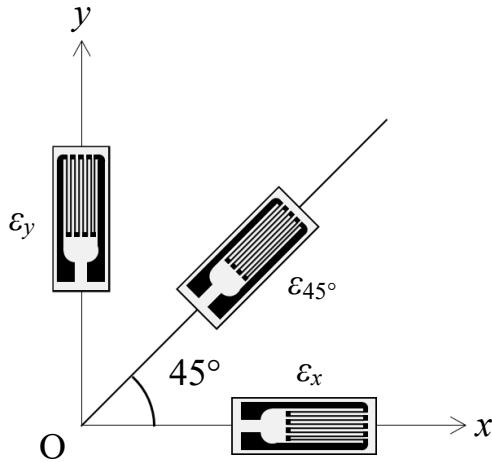


Fig.2.4 モールの応力円

[2] 板厚が十分に薄い弾性体表面のある点での応力状態を求めるため、図 2 に示すような  $45^\circ$  傾けた三軸ひずみゲージを貼り付けた。それぞれのひずみゲージから測定した値は  $\varepsilon_x = 315\mu$ ,  $\varepsilon_y = 115\mu$ ,  $\varepsilon_{45^\circ} = 115\mu$  ( $\mu = 1.0 \times 10^{-6}$ ) であった。この弾性体の縦弾性定数  $E = 91$  GPa,  $\nu = 0.3$  とし以下の設問に答えよ。ただし、回転方向は反時計回りを正とし、必要であれば  $\sqrt{2} = 1.41$  を用いて、有効数字 3 行で解答せよ。



**Fig.2** 三軸ひずみゲージ模式図

- (1) (i) 各ひずみゲージの値とひずみの座標変換式より、せん断ひずみ  $\gamma_{xy}$  を求め、 $x$ - $y$  座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{ij}]$  を求めよ。  
(ii) 求めたひずみテンソルより、モールのひずみ円を描き、その中心と半径を示せ。
- (2) 前問で描いたモールのひずみ円より、主ひずみ( $\varepsilon_1$ ,  $\varepsilon_2$ )および主ひずみ方向( $\theta_1$ ,  $\theta_2$ )を求めよ。ただし、 $-90^\circ \leq \theta_1, \theta_2 \leq 90^\circ$  とする。
- (3) (i) 応力一ひずみの関係式※より、 $x$ - $y$  座標系における応力テンソル  $[\sigma_{ij}]$  を求めよ。  
(ii) 求めた応力テンソルより、モールの応力円を描き、その中心と半径を示せ。
- (4) 前問で描いたモールの応力円より、主応力( $\sigma_1$ ,  $\sigma_2$ )および主応力方向( $\theta_1$ ,  $\theta_2$ )を求め、(2)で求めた主ひずみ方向との関係性を述べよ。

※ひずみの座標変換式

$$\varepsilon_\theta = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta$$

※応力一ひずみの関係式

$$\sigma_x = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_x + \nu \varepsilon_y), \quad \sigma_y = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_y + \nu \varepsilon_x), \quad \tau_{xy} = \frac{E}{2(1+\nu)} \gamma_{xy}$$

[[2]

(1) (i) ひずみの座標変換式は次式で表される.

$$\varepsilon_\theta = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta \quad (2.1)$$

式(2.1)に  $\theta=45^\circ$  を代入すると次式が得られる.

$$\varepsilon_{45^\circ} = \varepsilon_x \cos^2(45^\circ) + \varepsilon_y \sin^2(45^\circ) + \gamma_{xy} \sin(45^\circ) \cos(45^\circ) \quad (2.2)$$

上式に各ひずみゲージで計測した値  $\varepsilon_x=315\mu$ ,  $\varepsilon_y=115\mu$ ,  $\varepsilon_{45^\circ}=115\mu$  を代入し,  $\gamma_{xy}$  について整理することでせん断ひずみを算出できる.

$$\begin{aligned} \gamma_{xy} &= 2\varepsilon_{45^\circ} - (\varepsilon_x + \varepsilon_y) \\ &= 2 \times 115\mu - (315 + 115)\mu \\ &= -200\mu \end{aligned} \quad (2.3)$$

これより  $x$ - $y$  座標系におけるひずみテンソル  $[\varepsilon_{ij}]$  は次のようになる.

$$\left[ \begin{matrix} \varepsilon_{ij} \end{matrix} \right] = \left( \begin{matrix} \varepsilon_x & \gamma_{xy} / 2 \\ \gamma_{xy} / 2 & \varepsilon_y \end{matrix} \right) = \left( \begin{matrix} 315\mu & -100\mu \\ -100\mu & 115\mu \end{matrix} \right) \quad (2.4)$$

(ii) (i) より求めた  $(\varepsilon_x, \gamma_{xy} / 2) = (315\mu, -100\mu)$ ,  $(\varepsilon_y, -\gamma_{xy} / 2) = (115\mu, 100\mu)$  をプロットしてモールのひずみ円を描くと図 2.1 のようになる.

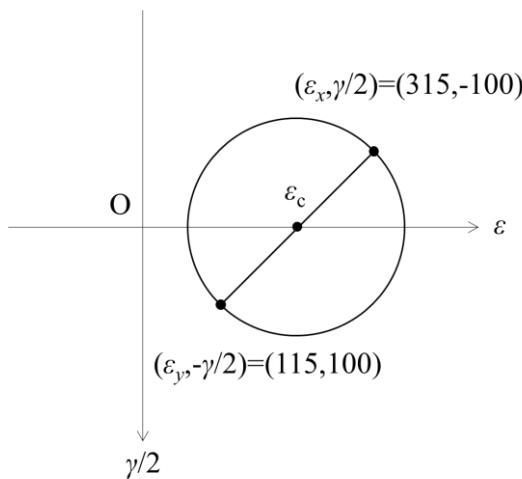


Fig.2.1 モールのひずみ円

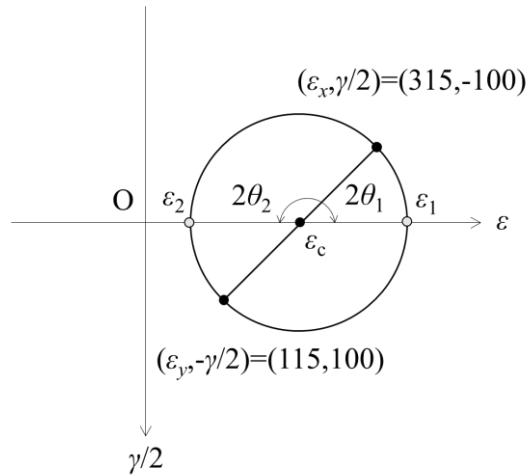
中心座標 $(\varepsilon_c, 0)$ は以下のように求められる.

$$\begin{aligned} (\varepsilon_c, 0) &= \left( \frac{\varepsilon_x + \varepsilon_y}{2}, 0 \right) \\ &= \left( \frac{315\mu + 115\mu}{2}, 0 \right) = (215\mu, 0) \end{aligned} \quad (2.5)$$

また半径 $r$ は以下の式より求められる.

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2} \sqrt{\left(\varepsilon_x - \varepsilon_y\right)^2 + 4\left(\frac{\gamma_{xy}}{2}\right)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(315\mu - 115\mu)^2 + 4(100\mu)^2} = 141\mu \end{aligned} \quad (2.6)$$

(2) 主ひずみ $(\varepsilon_1, \varepsilon_2)$ および主ひずみ方向 $(\theta_1, \theta_2)$ はモールのひずみ円上において以下の図2.2のように表される.



**Fig.2.2** 主ひずみおよび主ひずみ方向

上図より主ひずみおよび主ひずみ方向は以下のように求まる.

$$\begin{pmatrix} \varepsilon_1 \\ \varepsilon_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \varepsilon_c + r \\ \varepsilon_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 215\mu + 141\mu \\ 215\mu - 141\mu \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 356\mu \\ 74\mu \end{pmatrix} \quad (2.7)$$

$$\begin{aligned}\theta_1 &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{\gamma_{xy}}{\varepsilon_x - \varepsilon_y} \right| \\ &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{200\mu}{315\mu - 115\mu} \right| = -22.5 \text{ [deg]}\end{aligned}\quad (2.8)$$

主ひずみ方向は直交するので、 $\theta_2 = \theta_1 + 90 = 67.5 \text{ deg}$  と得られ、主ひずみ方向は、

$$\begin{pmatrix} \theta_1 \\ \theta_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -22.5 \\ 67.5 \end{pmatrix} \text{ [deg]} \quad (2.9)$$

(3) (i) 応力一ひずみの関係式※より、 $x$ - $y$  座標系における各応力は以下のように求まる。

$$\begin{aligned}\sigma_x &= \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_x + \nu \varepsilon_y) \\ &= \frac{91 \times 10^9}{1 - 0.3^2} \times (315 + 0.3 \times 115) \times 10^{-6} = 35.0 \text{ [MPa]}\end{aligned}\quad (2.10)$$

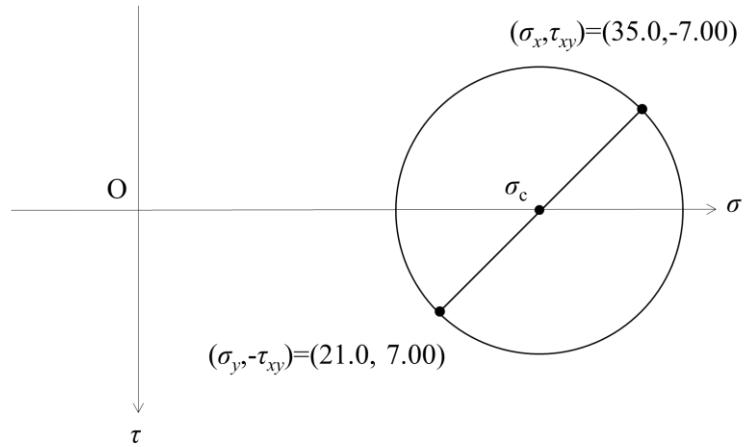
$$\begin{aligned}\sigma_y &= \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_y + \nu \varepsilon_x) \\ &= \frac{91 \times 10^9}{1 - 0.3^2} \times (115 + 0.3 \times 315) \times 10^{-6} = 21.0 \text{ [MPa]}\end{aligned}\quad (2.11)$$

$$\begin{aligned}\tau_{xy} &= \frac{E}{2(1+\nu)} \gamma_{xy} \\ &= \frac{91 \times 10^9}{2 \times (1 + 0.3)} \times (-200) \times 10^{-6} = -7.00 \text{ [MPa]}\end{aligned}\quad (2.12)$$

したがって、応力テンソルは以下のようになる。

$$\begin{bmatrix} \sigma_{ij} \end{bmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_x & \tau_{xy} \\ \tau_{xy} & \sigma_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 35.0 & -7.00 \\ -7.00 & 21.0 \end{pmatrix} \text{ [MPa]} \quad (2.13)$$

(ii) (i)より求めた $(\sigma_x, \tau_{xy})=(35.0, -7.00)$ ,  $(\sigma_y, -\tau_{xy})=(21.0, 7.00)$ をプロットしてモールの応力円を描くと図 2.3 のようになる



**Fig.2.3** モールの応力円

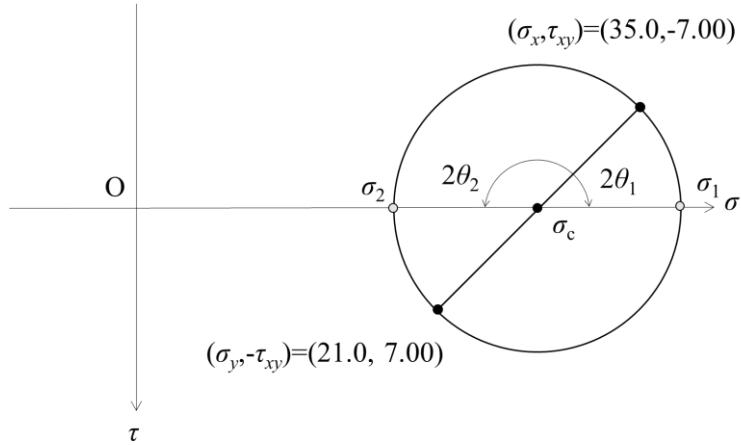
中心座標 $(\sigma_c, 0)$ は以下のように求められる.

$$\begin{aligned} (\sigma_c, 0) &= \left( \frac{\sigma_x + \sigma_y}{2}, 0 \right) \\ &= \left( \frac{35.0 + 21.0}{2}, 0 \right) = (28.0, 0) \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.14)$$

また半径  $r$  は以下の式より求められる.

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2} \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(35.0 - 21.0)^2 + 4(-7.00)^2} = 9.87 \text{ [MPa]} \end{aligned} \quad (2.15)$$

(4) 主応力( $\sigma_1, \sigma_2$ )および主応力方向( $\theta_1, \theta_2$ )はモールの応力円上において以下の図 2.4 のように表される.



**Fig.2.4** 主応力および主応力方向

上図より主応力および主応力方向は以下のように求まる.

$$\begin{pmatrix} \sigma_1 \\ \sigma_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_c + r \\ \sigma_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 28.0 + 9.87 \\ 28.0 - 9.87 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 37.9 \\ 18.1 \end{pmatrix} [\text{MPa}] \quad (2.16)$$

$$\begin{aligned} \theta_1 &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{2\tau_{xy}}{\sigma_x - \sigma_y} \right| \\ &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{2 \times 7.00}{35.0 - 21.0} \right| = -22.5 [\text{deg}] \end{aligned} \quad (2.17)$$

主応力方向は直交するので,  $\theta_2 = \theta_1 + 90 = 67.5 \text{ deg}$  と得られ, 主応力方向は,

$$\begin{pmatrix} \theta_1 \\ \theta_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -22.5 \\ 67.5 \end{pmatrix} [\text{deg}] \quad (2.18)$$

となる. 上式および式(2.9)より, 主応力方向と主ひずみ方向は一致することがわかる.